

地域連携支援プログラム

報告書

令和 4 年度

(2022 年度)

東海学園大学

地域連携支援プログラム報告書（令和4年度）

目次

令和4年度実践プロジェクトから

- 【経営学部3】「みよし市SDGs推進プロジェクト」(P1)
- 【経営学部5】「NEXCO 中日本のコミュニケーション戦略立案、実践」(P3)
- 【教育学部1】「「わかくさ教室」学生ボランティアの取り組み」(P5)
- 【教育学部13】「東海学園大学のお兄さんお姉さんと遊ぼう!」(P7)
- 【スポーツ健康科学部18】「みんな集まれ!!かけっこ教室」(P8)
- 【スポーツ健康科学部25】「名古屋ウイメンズホイールチェアマラソンエスコートスタッフ」(P10)
- 【健康栄養学部1】「第18回あさひ健康フェスタ」(P12)
- 【健康栄養学部4】「SDGs 将来世代創造フォーラム2022」(P14)
- 【健康栄養学部10】「福島県沖の魚を「見て・知って・食べて」
広めるメニューコンテスト産学連携」(P16)

地域連携支援プログラム全活動概要一覧 (P18)

【 】内の数字はP10～○全活動概要一覧の各単位の表番号を示す

みよし市 SDGs 推進プロジェクト

1. 目的・概要

経営学部岡村ゼミとみよし市は、包括連携協定に基づいて「みよし市 SDGs 推進プロジェクトチーム」を立ち上げ、地域における SDGs の普及・啓発に継続的に取り組んでいます。このプロジェクトチームは、市と本学が連携することを通じて SDGs を効果的に推進していく目的で 2021 年度に設置されたものであり、みよし市役所の若手職員と岡村ゼミの学生で構成されています。

2022 年度の活動として、みよし市内の小学校での SDGs 出前授業やみよし市 SDGs フォトコンテスト、イオン三好店での SDGs 啓発ワークショップを実施しました。こうしたプロジェクトに参加した学生たちは、これらの活動を通じて地域貢献活動のやりがいや SDGs の重要性を実感することができました。さらに、現役の公務員（市職員）のリーダーシップやプレゼンテーションスキルなどを間近でみたり、あるいは直接的に指導を受けたりすることによって、社会で活躍するためのノウハウを身に付けると同時に、実際に事業（プロジェクト）を企画・運営するためのマネジメントを学ぶことができました。

2. 担当部局

経営学部経営学科 助教 岡村 誠

経営学部経営学科 岡村ゼミ（20 名）

みよし市企画政策課

3. 所見・成果

（1）みよし市内小学校への SDGs 出前授業

2022 年 9 月から 10 月にかけて、みよし市内 4 小学校（緑丘小学校、北部小学校、南部小学校、黒笹小学校）で、延べ約 260 人の児童を対象に SDGs に関する出前授業を行いました。出前授業では、学生たち自身が作成した資料を用いて、SDGs の概要やみよし市の SDGs に向けた取り組みについて講義をしたり、SDGs の達成に向けた具体的な取組を考えるグループワークを行ったりしました。

また、緑丘小学校と黒笹小学校では、名古屋市で古紙回収事業を行っている株式会社エス・エヌ・テアのアップサイクル商品である「color noise」（古紙）を用いて工作を行いました。児童のみなさんは学生と一緒に、自らのアイデアや創造性を活かしてブックカバーやエコバックなどの様々な作品をつくり、本来ならゴミとして廃棄されていたはずの古紙に新たな価値を付与することで、SDGs 17 の目標のうちゴール 12（つくる責任つかう責任）やゴール 15（陸の豊かさを守ろう）などの達成に貢献しました。



SDGs に関する講義を行う学生



古紙を用いた工作の様子

（２）みよし市 SDGs フォトコンテスト

2022年9月1日から11月11日までの期間にみよし市 SDGs フォトコンテストを開催し、みよし市に関わる一人ひとりが、日々の暮らしの中で SDGs の 17 のゴールを意識するきっかけとなるような写真を市内外から募集しました。その結果、合計で 363 点の応募があり、それらの中から一般の部で 8 点、小・中学生の部で 13 点が優秀作品として表彰されました。

2023年2月11日（土）には、みよし市役所で表彰式を行い、そこでは東海学園大学学長賞を受賞した伊澤珠美さん（一般の部）、安本楓さん（小・中学生の部）、倉木悠花さん（小・中学生の部）の3名に遠藤副学長から賞状と副賞が手渡されました。

当該コンテストの全受賞作品に関しては、2023年2月16日（木）から26日（日）まで、イオン三好店1階デコホーム前で展示され、多くのみよし市民から見ていただくことができました。



学長賞を授与する遠藤副学長



学長賞受賞者との記念撮影

（３）イオン三好店での SDGs 啓発ワークショップ

2023年2月18日（土）に、みよし市民への SDGs 啓発を目的に、イオン三好店でエコバッグづくりワークショップとペットボトルキャップを用いたエコボードゲーム体験会を開催しました。

オリジナルエコバックづくりのワークショップでは、大学のロゴとみよし市 SDGs ロゴが入ったエコバッグに、スタンプを押したり好きな絵を描いたりして、楽しみながら自分だけのエコバッグを作成してもらいました。また、エコボードゲーム体験会では、捨てられていたはずのペットボトルキャップを用いて、ソリティアオンラインワンを楽しんでももらいました。これらのイベントには、延べ 100 名以上の人々にご参加いただくことができ、レジ袋の削減に寄与するとともに、子どもから高齢者まで幅広い年代の方々から楽しみながら SDGs について考えてもらうことができました。



オリジナルエコバッグづくりの様子



エコボードゲームに挑戦する子どもたち

NEXCO 中日本のコミュニケーション戦略立案、実施

－ SNS アカウント「とうがく調査隊」の運用 －

1. 目的・概要

本活動はNEXCO 中日本（中日本高速道路株式会社）との産学連携として、同社が抱えるマーケティング課題に対して、本学生が大学生の視点で解決策の提案を行い、提案内容の実現を通じて企業のマーケティング活動を実践的に学び、同社としては若年層のアイデアをいかした施策の実現を目指して、両者が協働して取り組むものである。



NEXCO 中日本との打ち合わせ



サービスエリアの裏側を取材する学生

2. 担当部局

教 員：経営学部経営学科 准教授 成田 互

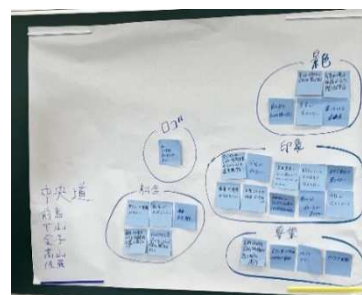
学 生：専門演習 C・D【広告・コンテンツ】履修生 14 名

共 催：NEXCO 中日本

3. 所見・成果

本演習では、教員が学生たちにとって卒業後にどんな世界に行っても必要となる力が身に着くことを目指して行ってきた。アイデアを生み出す企画力、わかりやすく正確に意思を伝える表現力、仲間と協働するチームワーク力、やりきる遂行力、相手をリスペクトする共感力、の5つの力であり、本活動を通じてそれぞれがそれらの力を伸ばすことができた。また就活を控えた3年生でもある学生たちにとって、コロナで学外での積極的な活動ができなかった中で、この活動が貴重なガクチカとなったという側面もあった。アカウントのPRや、メインビジュアルの開発など授業時間に行わざるを得なことも多く、複数のタスクを短時間でチームワークを最大限に発揮して同時に進め、スケジュールを意識しながら進めていくという貴重な経験になった。

また、本演習の具体的なスケジュールは、NEXCO 中日本の本社広報部長以下4名が5月26日（木）、本学に来学され、経営学部3年の専門演習 C/D【広告・コンテンツ】（教員：成田）の授業として学生14名に



学生による課題抽出

対して、同社の事業環境、ブランド評価結果、コミュニケーション課題等のコミュニケーションにおける現状と、課題解決を目指すオリエンテーションを行った。その後、学生たちは、3チームに分かれ、プレゼンテーションに向けた準備を開始、NEXCO 中日本に関する情報収集を行うとともに、課題の整理や、SWOT を利用した分析に着手した。さらに、ブレーンストーミングやアイデアのブラッシュアップを行い、企画書の作成、補足資料の収集、プレゼンテーションの予行練習まで2か月をかけて集中的に進めた。7月21日（木）、再度同社から4名に来学頂き、学生たちは3チームに分かれてプレゼンテーションを行った。提案内容は同社内で他部署も含め、念入りに検討が行われ、学生たちの夏休み期間中に教員に対して回答を頂いた。夏休み明けの9月15日（木）の授業内で学生たちに同社での検討結果と、提案に対する高い評価結果のフィードバックを行った。



学生デザインのキービジュアル

多くの提案の中から SNS を使用した学生による発信を行う案が最も効果的であると判断したとの回答により、即同日よりその実現のための実施作業の着手に入った。まず学生を2チーム計4班に分け、それぞれが高速道路に関する疑問やトリビアの取材や、高速沿線の魅力ある目的地の取材作業に入った。同社との間で、何度も取材地の候補や、取材内容の検討を進め、11月に各チームが取材内容の決定や投稿スケジュールを確定。12月15日（金）を初投稿日と決めた。また、発信していく SNS をインスタグラムに決め、マーケティングデータの取得が可能なプロアカウントの取得、パスワードの管理方法、投稿の決め事、投稿ローテーション等多くの調整事項や決定事項、共有を行い、初投稿に向けた念入りな準備を行った。さらに、初回の取材チームは11月25日（金）の浜松の「ぬくもりの森」「石松餃子」「浜名湖サービスエリア」等で、丸1日かけて巡回訪問し、体験、撮影等を行い、この日の取材内容で初投稿した。他の班も年内に様々な取材に出かけ、無事各チームとして初回投稿を終えた。

本企画の重要なポイントとして、同社の関連情報を取り扱うだけでなく、学生たちのリアルなキャンパスライフも投稿していくことで同世代の共感を得ることがあったため、学生たちは交替で日々の生活についても投稿を続けていった。また、企業の方々にプレゼンテーションを行ったり、企業のオフィスを訪問し打ち合わせをしたり、学内では経験できない体験が学生たちを成長させ、社会人になる準備のための意識を高める意味でも成果があった。

SNS という性質上継続的に発信することで成果が出てくるため、同社は翌年度も継続して施策を行う希望であり、大学側でも今後下の学年に引き継ぐ形で継続性を持たせる形を予定している。



学生たちは緊張した面持ちで NEXCO 中日本・広報部長へプレゼンテーション

「わかくさ教室」学生ボランティアの取り組み

1. 「わかくさ教室」における学生ボランティアの活動の目的・概要

「わかくさ教室」は、岐阜県関市国際交流協会の事業として位置付けられ関市教育委員会の理解も得て実施している、日本語を母語としない中学生のための教科学習支援教室である。一言で「日本語を母語としない」と言っても、母語、出身国や出生国、日本で暮らす理由、日本語の理解度など教科学習の基盤は多様である。小野木政子氏(関市外国人児童生徒等教育相談員)と横山真理(本学教育学部教員)が運営責任者となり、毎年、大人のサポーターと学生ボランティアにより、希望する中学生に対する学習支援を続けてきた。3年前までは関市の公民館において対面で実施してきたため本学学生の参加はなく、近隣の他の大学の学生がボランティアとして参加していた。コロナ禍の影響により、2年前より全面的なオンライン教室に移行し現在に至っている。年間30回(週1回から2回、各1時間)の計画を立て、年度はじめに、本学教育学部学校教育専攻3年生を中心に募集の声をかけ、参加の意思を伝えてきた学生に対して、改めて事前説明会を実施している。その後、学習支援を希望する中学生と支援者(大人のサポーターや学生ボランティア)とのマッチングを行ったり、zoom ミーティングでつながる練習をしたりしながら準備を整え、学習支援を始めている。日本語を母語としない中学生にとっての強い願いは、基礎学力を身につけ希望する高校へ進学することである。彼らは、第二言語の習得や学習言語の習得に大きな困難を抱えているが、その困り感は見えづらい。そこで、本人の困り感を具体的に確認しながら時間をかけて学習支援をおこなっていく必要がある。

そのため、中学生1人に対して大人のサポーターや学生ボランティアが1人付き、1対1での学習支援を行うことができる体制が必須である。その上で、本学教育学部学校教育専攻の学生が毎年のように数

岐阜県関市国際交流協会事業

2022年度 日本語を母語としない中学生のための学習支援

「わかくさオンライン教室」

学生ボランティア募集!

支援の内容例

- ★高校入試に向けての学習
- ★期末テストに向けての学習
- ★授業の予習・復習
- ★宿題
- ★日本語の学習

主な支援対象: 岐阜県関市内の中学校に在籍している生徒

支援の方法: 生徒1人対学生1人または2人で交代しながら支援します。生徒との対話を大事にして支援します。

開催日時	毎週1回、各回につき1時間程度(午後7時以降) ※曜日や時間帯については相談して決めます。 ※都合が悪く支援に入れない時は、運営責任者が調整します。
方法	zoom ミーティングを使い、オンライン上で教えます。 生徒が使用している教科書や問題集などは、用意させていただき、それをオンライン上で画面共有するなどしながら教えます。 小型のホワイトボード・PDF教材を貸し出しますので、それに手書きしながら教えることもできます。 日本語がまだよくわからない生徒に対しては、日本語学習のテキストを使ってゆっくりと教えたり、日本語で楽しく会話したりします。

(運営責任者:小野木政子・横山真理)

連絡先メールアドレス wakakusa.ym@gmail.com

無償ボランティアですが、年度末に若干の謝金をお渡しします。関心のある方は、左記メールにご連絡ください。メール、電話、zoomなどで説明させていただきます。

6月7日(火)6時30分～:生徒と対面し初回の顔合わせを行います。生徒と大人のサポーターは対面で、**学生ボランティアはオンラインで参加します。**

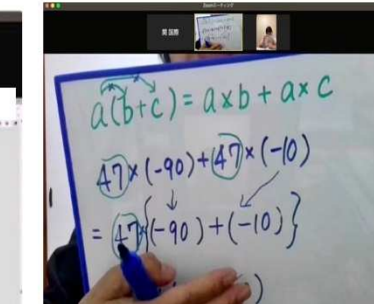


PDF教材を画面共有



ホワイトボードを使って





多くボランティアを希望してくれることが本当にありがたく思っている。また、学生ボランティアを主軸としたこのような「わかくさ教室」の取り組みは、外国につながる子どもの支援で有名な可児市国際交流協会や日本特別ニーズ教育学会など、外部団体からも問い合わせや講演の依頼がくるなど、大きな注目を集めている（協定書・委託金は無）。

2. 担当部局

事業名：日本語を母語としない中学生のための教科学習支援教室「わかくさ教室」

教員：教育学部教育学科 准教授 横山真理

学生：2022年度に参加した学生14名

主催/岐阜県関市国際交流協会

3. 所見・成果

ボランティアに参加した学生に対して、年度末にアンケート調査を行った。ボランティアに参加して「大変良かった」と回答した学生は100パーセントであり、満足度が非常に高かったことが窺える。その理由は表1の通りである。また、「日本語を母語としない子どもに対する理解が深まった」と回答した学生も100パーセントであった。「どのように理解が深まったか」という問いに対する記述(表2)から、ボランティアを通して、外部からは見えづらい学習に関する困り感を抱えている子どもに対する共感的な姿勢を形成したり、個に応じた学習の具体的な支援方法の実際を経験したりすることができたのではないかと評価している。

2022年度に学生ボランティアとして参加した4年学生のほとんどが小学校教員として採用され、4月より教壇に立っている。近年、日本の学校教育の場においては外国につながる児童・生徒の数が増え続けている。ボランティアに参加を希望する学生はいずれも小学校教員を強く志望しており、「わかくさ教室」学生ボランティアの経験は将来教員になった時にきっと役立つであろう。

(文責：横山真理)

質問2. 質問1の回答の理由について、具体的にお聞かせください。

7件の回答

子どもに教える難しさと楽しさを知ることができたこと

生徒に寄り添いながら、一緒に勉強し受験勉強の一助になれたため。

生徒の出身地について知ることが出来たりなど、異文化交流が出来たから。

オンラインでの学習支援をできる機会というのはなかなかないと思うので、それを体験できたのが何より良かったです。

指導力に活かすことができたため。

関わることがあまりない外国籍の児童と関わる事が出来たため

勉強を教える経験を積むことができたことと、担当の生徒と関わりながら楽しく学習することができたから。

表1 ボランティアに参加して大変良かった理由

質問5. 質問4で「理解が深まった」と回答した学生にお尋ねします。どのように理解が深まったか、具体的に教えてください。

6件の回答

言葉を通して、その生徒の考え方や価値観を知ること、言葉が話さず話せないによって大きな格差が存在することを改めて感じた。

他愛のない会話を通して、生徒の好きなこと、苦手なことを知ることができたこと

一番理解が深まった点は外国人の子どもたちは日本語が話せないとかのレベルではなく、学習の面で追いつけない子が多いということです。もちろん個人差はあると思いますが、基礎知識の定着が日本人の子どもよりできていないことは十分に知ることが出来ました。

問題で躓く所が日本語を母語としないからこそ出てくるものがあることを知れたため。

どのように伝えることが1番適切なのか考えさせられた。

日本語を母語としない生徒の学習の現状に対する理解が深まった。

表2 「どのように理解が深まったか」に対する回答

東海学園大学のお兄さんお姉さんと遊ぼう！

1. 目的・概要

保育士や幼稚園教諭を輩出する保育者養成校として、近隣地域の子育て支援に参画することをおし、地域貢献とともに大学としての学びを地域に開くこと、学生の保育実技や子育て支援への理解といった保育実践力を高めることを目的として実施した。

活動の概要としては、2023年3月17日(金)10時30分から11時15分まで、後6か月から3歳の未就園児とその保護者を対象に子育て支援会を開催した。コロナ禍の影響もあり、定員先着10組の予約制で実施し、当日も親子ごとに間隔を空けて配置されたシートに座ってもらう環境に進めた。活動内容は、保育専攻3年生による保育実技のお楽しみ会と大学教員によるミニ子育て講話、天白児童館職員との花の苗植え体験である。

2. 担当部局

教員：教育学部教育学科 准教授 木本有香

学生：教育学部教育学科保育専攻3年木本ゼミ9名

主催/天白児童館

3. 所見・成果

当日は、学生による保育実技のお楽しみ会25分と大学教員の子育て支援ミニ子育て講話20分、終了後には花の苗植えを実施した。定員10組の予約制であったが、当日10組(子ども11名、保護者10名計21名)の参加があり、キャンセル待ちの上当日参加が決まった親子もいるほど盛況であった。保育実技のお楽しみ会では、手遊び、歌遊び、パネルシアター、絵本、ダンスに挑戦し、子どもからの反応を拾いながら、これまでの実習経験を活かして取り組んでいた。大学教員のミニ子育て講話「家庭で育つ非認知能力とは」では、学生は親子1組ずつに寄り添い、保護者が講話を聴いている間の託児を担った。会終了後の天白児童館行事の苗植えについても親子1組に学生が寄り添い、一緒に花の苗を植えたり、保護者の代わりに子どもを撮影したりするなど、保護者一人では困る状況の手伝いを経験した。今回、天白児童館との地域連携事業として実施したが、参加親子のなかには、昨年秋の天白図書館でのおはなし会や、天白区の子育て支援行事「てんぱく子育てフェア」に参加し



来てくださった親子もあり、東海学園大学教育学部の名前が少しずつ地域の子育て家庭にとって身近なものになっているのではないかと実感している。また、終了後に、参加保護者と個別に大学教員が話をし、育児の相談、長子の入園に関する不安などの相談に乗る時間もとることができたため、保育者養成大学としての専門性を地域に開くことも実践できた。そして、何よりも学生自身が実際の親子の姿理解、保護者の悩みと相談対応方法を学べたことが有益であったといえる。親子が喜ぶ姿からそれぞれ自分の育ちも実感できる機会となったと考える。

2023年3月天白児童館

東海学園大学の
お兄さんお姉さんと遊ぼう！

保育士や幼稚園教諭を目指す大学生のお兄さん・お姉さんと一緒に手遊びや歌遊び、パネルシアター、物語などを楽もう！
保育専攻の先生の子育てに関するミニ講座もありますよ！

講師：東海学園大学 准教授 木本有香

日時：2023年3月17日(金)10時30分～11時15分
会場：天白児童館(天白区池場5-1801)
対象：6か月から3歳の未就園児と保護者
定員：先着10組
申込：3月2日(木)午前10時から電話または窓口にて受付
申込先：天白児童館(052)805-4129

みんなに
会えることを
楽しみにして
いますよ！



みんな集まれ!!かけっこ教室

1. 目的・概要

「みんな集まれ!!かけっこ教室」は、からだを動かすことの心地よさや面白さを心身を通じて体感してもらうことを目的とした小学生対象のイベントである。楽しく身体を動かすことを目的に、走る・跳ぶ・投げるといった身体活動の基本動作をあそび感覚で体験する。速く走る、誰かに勝つことではなく、広いグラウンドや体育館で思い切りからだを動かし、チャレンジすること、多様なからだの動かし方を体験することで、運動することの楽しさを感じてもらいたいと考えている。参加者は、運動好きな子どもから嫌いな子ども、苦手な子どもまで幅広く、参加者のリピーター率が高い。

2021年12月に第1回目を開催し、年に2回のペースで実施している。2022年11月20日には第3回目、2023年2月21日には第4回目を開催した。第4回目からは、三好ともいきスポーツクラブとの共催にすることで、より地域に根ざしたイベントを目指すこととした。本イベントには、毎回35名程度の小学生が参加している。参加者の居住地はみよし市にとどまらず、日進市、安城市、名古屋市、豊田市、知立市、岡崎市、三重県など広範になりつつある。

また、本イベントでは、スポーツ健康科学部の教員のほかに同学部で陸上競技部に所属する学生がスタッフとして指導にあたっている。参加する学生たちは、大学の講義やクラブで学び得た知識を地域の子どもたちに還元することで、スポーツを通じて地域社会に貢献することを目指している。

2. 担当部局

- ・スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科 准教授 木村華織
- ・スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科 准教授 黒須雅弘
- ・スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科 陸上競技部 24名（延人数）
- ・スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科 卒業生 5名

主催/共催/協力/委託/その他：

スポーツ健康科学部・みよしともいきスポーツクラブ共催

第1回から第3回目までは、スポーツ健康科学部主催イベントとし、2023年2月開催の第4回からは、三好ともいきスポーツクラブとの共催イベントとして実施した。

3. 所見・成果

大学やクラブでの学びを地域の子どもたちに還元することを目指し、教員と学生によるチラン配りからスタートした「みんな集まれ!!かけっこ教室」は、2023年2月に第4回目を開催した。参加者は、1回目46名（放課後デイサービスの子どもたち12名も参加）、2回目30名、3回目40名、4回目34名であった。第3回、第4回は雨天のためアリーナ（三好キャンパス5号館）での開催となったが、屋内においても充実した内容となった。イベント開始から2年目を迎え、現在ではリピーター参加者も増え、イベントとしての価値は少しずつ地域に浸透している。できる、できないや勝ち負けだけではない、身体活動の楽しさを子どもたちに感じて欲しいという思いから、今後も年2回の開催を継続していきたい。

他方、本イベントは、本学学生にとっても日常の学びを他者に伝え、地域に貢献していくという意味でその意義は大きい。実践の場で、指導法や子どもたちとの関わり方を学ぶ機会であり、自らが取り組むスポーツの価値を伝える場としても有効に機能している。

地域の子どもたちに運動することの楽しさを伝えるとともに、本学学生の実践教育の場として、今後も内容をブラッシュアップしながら取り組んでいきたい。

<第3回・第4回かけっこ教室の様子>

2022年度に開催した2回はいずれも雨天のため屋内での実施となった。以下がその様子である。



名古屋ウイメンズホイールチェアマラソンエスコートスタッフ

1. 目的・概要

2014 年の第 1 回大会から現在まで 10 年間にわたり、名古屋ウイメンズホイールチェアマラソンのエスコートスタッフを務めているのがスポーツ健康科学部を中心とする本学の学生たちである。2023 年 3 月 12 日に開催された大会は、第 10 回目の記念大会となった。

名古屋ウイメンズホイールチェアマラソンは、「競技人口の少ない女子車いすマラソンを世界的に普及させるきっかけとするとともに、身体に障がいがある方の社会参加に向けた意欲を喚起する。」ことを目指す大会である。イベント当日、学生たちは、ゴールした選手を迎え、競技用車いす（レーサー）から生活用車いすに乗り換えるサポートや荷物の持ち運び、レーサーの搬送作業、ゴールテープなどを担当した。スタッフとしての参加は、学生たちがノーマライゼーションの観点から大会に関わり、選手やレースを間近で観ることにより、新たな身体観やスポーツの価値に触れるとともに、イベントを支える立場を経験する貴重な機会になっている。

なお、スタッフとして参加する学生は、大会前に行われる事前研修会に参加した上で当日に臨む。研修会では、イベントやパラリンピックの歴史等の知識学習、競技用車いすの乗り方や運び方、選手との関わり方に関する実践学習を行っている。

2. 担当部局

スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科 准教授 木村華織

スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科 14 名

経営学部 経営学科 1 名

愛知県およびマラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知実行委員会より依頼を受けて協力している。

3. 所見・成果

毎年 15 名～20 名程度の学生が本イベントのエスコートスタッフとして参加し、近年では複数年連続してエスコートスタッフを申し出る学生もいる。イベントへの参加だけでなく、事前研修において大会の意義やパラスポーツの歴史に触れることや実際に生活用車いすや競技用車いすに乗ることにより、学生たちは日常にある多くの障壁に気づくことができる。こうした事前研修と当日の活動がセットになることで、基礎知識をもって活動に臨むことができるようになり、ただ参加するという以上に多くのことを感じ、吸収している様子がうかがえる。目の前でみるホイールチェアマラソンのスピードと選手たちのパワフルさは圧巻であり、選手たちとの関わりが学内にいるだけでは学び得ない新たな学びを学生たちにもたらしめている。愛知県との連携によって実現した、本学でしか体験できない実践的な学びの機会を提供していけるよう、今後も本活動に力を注いでいきたい。

<事前研修会の様子>



<ウイメンズホイールチェアマラソン当日の様子>



第 18 回あさひ健康フェスタ

1. 目的・概要

尾張旭市主催の本イベントは「健康都市 尾張旭」を市内外に発信するため、毎年 4 月 29 日（尾張旭市 健康の日）に実施されている健康推進事業である。

参加団体の区分は、各種団体、企業、医療機関、大学である。会場は尾張旭市内に 4 つ設置され、本学はスカイワードあさひ会場の産学公連携・体験コーナーに参加した。悪天候にもかかわらず、とうがく健康測定には約 170 名もの方にお越しいただいた

協定書：無し

委託金：無し

2. 担当部局

教 員：健康栄養学部管理栄養学科 教授 西田淑男

教授 神戸絹代

助手 竹内万莉乃

学 生：西田ゼミ学生 4 年生 3 名、神戸ゼミ学生 4 年生 6 名

主 催：尾張旭市 企画部

協 力：イチビキ株式会社

3. 所見・成果

本イベントでは、「スタンプラリー」と「とうがく健康測定」の 2 つの催し物を行った。あいにくの雨天ではあったが、どちらのブースもたくさんの方に足を運んでいただき、常時待ちの列ができる盛況ぶりだった。

(1) スタンプラリー

スカイワードあさひ会場にて 5 フロア中 2 フロア以上のスタンプを集めた参加者に、とうがくカレー（600 食）およびイチビキ共同開発製品（600 食）を記念品として提供した。イチビキ共同開発製品は多くの種類の中から参加者に選んでいただいた。

(2) とうがく健康測定

「骨密度測定」、「血中ヘモグロビン測定」および「足指筋力測定」を参加者に体験していただいた。担当した学生は、測定結果を渡す際に簡単な説明とコメントを添えて、参加者とコミュニケーションを図った。

イベント内の別企画「4 会場でスタンプラリー」にて 4 会場（スカイワードあさひ、グリーンシティケーブルテレビ、イトーヨーカドー尾張旭店、尾張旭市文化会館）中 2 会場以上のスタンプを集めた参加者に、抽選商品としてイチビキ共同開発製品「でらげんき」を提供した。

本イベントにて、健康意識の高い様々な年代の方と交流しながら大学で学んだことを実践できたことは、学生にとって今後の学習意欲向上にも繋がる経験であったと考えられる。



館内スタンプラリー 記念品引換所の様子



とうがく健康測定 血中ヘモグロビン測定の様子



とうがく健康測定 骨密度測定の様子



とうがく健康測定 足指筋力測定の様子



イベントのチラシ

SDGs 将来世代創造フォーラム 2022

1. 目的・概要

アサヒ飲料株式会社 中部北陸支社主催の本イベントは、「新しい共感価値の創出を目的に社会課題に向き合いながら、将来世代の育成と幸福な未来社会の実現に向けたプラットフォームの構築」のため2022年度に初開催された。

参加団体の区分は、各種団体、企業、医療機関、大学、高等学校である。開催テーマに基づく3つのテーマゾーン（環境ブース・健康ブース・地域共創ブース）が設置され、本学は健康ブースに出展した。

参加の目的は、学生が主体となって参加者の方々との交流を図り、大学で学んでいることを分かりやすく発信する実習の場とすることおよび本学部の取り組みを様々な方に知っていただくことである。

協定書：無し

委託金：無し

2. 担当部局

教 員：健康栄養学部管理栄養学科 教授 西田淑男

助手 鈴木美沙

助手 竹内万莉乃

学 生：西田ゼミ学生 4年生3名、3年生4名、中出ゼミ学生 3年生6名

主 催：アサヒ飲料株式会社 中部北陸支社

3. 所見・成果

本イベントでは、「とうがく健康測定」と「本学のSDGsの取り組み紹介」の2つの催し物を行った。初開催のイベントであったが、どちらのブースもたくさんの方に足を運んでいただき、常時待ちの列ができる盛況ぶりだった。別ブースに出展している企業・団体の方や高校生・大学生にも参加いただいた。

(1) とうがく健康測定

「骨密度測定」および「体組成測定（InBody）」を参加者に体験していただいた。担当した学生は、測定結果を渡す際に簡単な説明とコメントを添えて、参加者とコミュニケーションを図った。

(2) 健康栄養学部の取り組み紹介

健康栄養学部作成のパンフレット内の①学部の特徴、②産学連携活動、③地域活動および④健康栄養プラザ紹介ページを抜粋して紹介した。紹介した活動は次のとおりである。【①地域保健活動演習、スポーツ栄養サポートチーム、健康運動実践指導者】、【②食品開発（イチビキ株式会社との共同研究）、大学生×企業のコラボ（マックスバリュ東海株式会社とのコラボ、日本ゼネラルフードとの産学連携、株式会社名給との産学連携）、とうがくカレー】、【③みんなの元気フェスタ in てんぱく、名古屋市農業センター ともいきのいえファーム、天白区区民まつり、学生の取り組み（レシピコンテスト等）】、【④健康栄養プラザ】また、とうがくカレー、とうがくゼリーおよびでらげんき（イチビキ株式会社共同開発商品）の商品展示を行った。

本イベントにて、大学で学んだことを様々な年代の方と交流しながら実践できたことや自身が開発に携わった商品を紹介できたことは、学生にとって貴重な経験であったと考えられる。



本イベントに参加した学生達



企業コラボ商品の展示コーナー



参加者の様子および本学部の取り組み紹介展示



イベントのチラシ

福島県沖の魚を「見て・知って・食べて」広める

メニューコンテスト産学連携

1. 目的・概要

管理栄養士を目指す学生にとって、特定給食施設での献立作成は、見た目、栄養、価格のみならず環境・食糧問題に対しても意識を高め幅広い知見をもとに取り組む必要がある。今回、日本ゼネラルフード株式会社と連携して福島県沖の魚を「見て・知って・食べて」広めるメニューコンテスト産学連携活動を実施した。本イベントの目的は、東北大震災と原子力発電所事故の風評被害の現状と福島県沖の魚の安全性を理解し魚の消費量拡大を目指した取り組みに参加することである。（協定書・委託金なし）

2. 担当部局

令和4年7月の給食計画論の授業で、東北大震災で被災され現在はいわき市でレストラン経営と日本サッカーチーム帯同シェフでご活躍の西芳照氏をお招きして、福島県沖でとれる魚が安全でいかに美味しいかについてお話を伺った。令和4年9月には健康栄養学部2年82名が、日本ゼネラルフード株式会社が給食を受託している「トヨタ車体吉原工場」「河村電機産業本地工場」「名古屋テレビ放送」の職員を対象とした給食で販売する鯖や鰯を使用したメニューを考案しコンテストに応募した。応募基準は食材費200円以内、栄養量、大量調理向き、見た目の良さを考慮したものであった。

一次審査として、大量調理に精通した教員が学内審査の結果20品を選出した。二次審査として、日本ゼネラルフード株式会社社員の管理栄養士、調理師、エリアマネージャーで審査し優秀賞3品、入賞3品を決定した。優秀賞・入賞の6品は、事業所で提供するために調理工程、作業指示書、価格、嗜好、栄養量などを見直し日本ゼネラルフード株式会社社員が修正を行った。日本ゼネラルフード株式会社テストキッチンにて行われた優秀賞・入賞の試作時は、献立作成者、販売業務に従事する徳永ゼミ生8名が参加した。3事業所で販売する作品は、優秀賞3品（八丁味噌香る鯖のキムチ味噌煮、ヤンニョム鯖、鰯の梅しそチーズ焼き）であり、令和4年11月28日、12月5日、12月12日に販売を行った。徳永ゼミ3年生9名は、優秀賞3品の料理が完売するようなプロモーションの方法を学び、顧客への声掛けなどに従事してすべて完売することが出来た。

教員：東海学園大学健康栄養学部管理栄養学科 准教授 徳永佐枝子

学生：健康栄養学部学生2年82名、3年8名

共催：日本ゼネラルフード株式会社

3. 所見・成果

学生達は、東北大震災と原子力発電所事故の風評被害で福島県沖の魚の水揚げ状況が悪化していることや福島県のモニタリング検査と漁協のスクリーニング検査が実施され安全性を確認されていることを知ることが出来た。また、福島県沖の魚は、「常磐もの」と呼ばれ高い評価を受けている水産物であることも理解できた。今回の取り組みで、福島県沖でとれる魚の消費拡大に向けて大量調理を理解し顧客に選んでもらうメニューにするためのポイントについて学ぶことが出来た。また、実際に学生考案メニューを販売するためには売上向上のための戦略やアイデア、ブランディングについても理解することができたと考えられる。



メニューコンテストのチラシ



お話を伺った西芳照氏と学生達



日本ゼネラルフード本社にて優秀賞の表彰式



優秀賞・入賞作品の試作の様子



販売日の職員食堂前のパネルと学生達



顧客に購入してもらうための盛りつけの実演

No	タイトル	内容	開催月日	開催場所	参加人数	学生数	種別	契約有無等の書
1	学生ラジオ番組「明日香と結のゆるたいむ♪」「みうとうたのバズってたいむ♪」「ちひろとはるのコーヒータム♪」の企画・制作	FMラジオ番組「カリブ文学者山本伸のマンデーナイトグループ」(CTY-FM/毎週月曜夜7時～8時の生放送)のコーナー企画として1ヶ月に2回放送。毎回テーマを設けて、大学生目線で2人のパーソナリティが自由に対話し、それをより濃密に編集、バックに音楽をかぶせてひとつのコーナー作品として仕上げる。(聴取可能領域は三重県北勢地域80万世帯およびアプリにて全国どこでも。)	4月1日～3月31日	三好キャンパス	—	7	共催	無
2	企業連携による職場改善提案	株式会社ハマキョウレックスが手掛けるロジスティクス事業、3PL事業、並びに職場環境の改善について、現状のビジネスモデルの分析、職場環境について企業側と整理し、学生目線で考える働きやすい職場、入社したい職場に対するプランを検討した。検討したプランを経営者、採用担当者、関係者へ向けて提案・発表した。	4月1日～3月31日	㈱ハマキョウレックス・みよし第一センター、本学三好キャンパス	20	12	共催	無
3	みよし市SDGs推進プロジェクト	「みよし市SDGs推進プロジェクトチーム」の活動として、みよし市内の小中学校へのSDGs出前講座やSDGsフォトコンテスト、イオン三好店でのエコバッグづくりワークショップを実施。	4月1日～3月31日	みよし市役所、市内小学校	500以上	12	共催	有
4	高齢者施設における健康ワークショップの実施	高齢者デイスサービスにおいて、ワークショップを展開した。脳の活性化や健康増進、認知症予防、介護予防などをテーマとして利用者とともに実践した。ワークショップの内容は学生が事前に考案して準備し、進行も学生が行った。利用者は地域から通って来られ、認知症の方もおられたが、いっしょに参加され、学生との良い機会となった。	4月20日 4月21日 5月26日	㈱SHIN-WA(高齢者デイスサービス「笑みりハビリティサービス」)	22	15	その他	無
5	NEXCO中日本とのInstagram「とうがく調査隊」運用	NEXCO中日本からのマーケティング課題を踏まえて、学生がコミュニケーション施策を提案。検討の結果、SNS運用が決定。高速道路にまつわる様々な情報や、沿線情報を学生が調査、取材、投稿するアカウント「とうがく調査隊」を運用。企業のブランディング業務に携わることで実際のマーケティング活動を体験する。	5月26日～3月31日	中日本高速道路㈱・事業エリア内各所	—	16	共催	有
6	TV番組の企画立案	平日午前の生放送ワイドショー内で、より視聴者の関心度を高められるコーナー企画を、学生の視点で企画した。視聴者層である主婦層の調査を踏まえ、番組プロデューサーに企画提案した。	6月1日～7月6日	東海テレビ放送㈱	—	11	共催	無
7	三越伊勢丹グループとの連携による百貨店業態の課題解決	三越伊勢丹グループ(名古屋三越栄店、ラシック)や百貨店業態の現状、テナントビルの抱える課題に関するオリエンを受け、顧客体験の向上によってエンゲージメントを高めるためのファンマーケティングに関して学生が研究。5か月間、学生が3チームに分かれ、調査、データ収集、店舗訪問を行った上でプレゼン。提案成果を翌期のマーケティング戦略に反映した。	6月23日～11月17日	㈱名古屋三越	—	12	共催	無
8	広告キャッチコピーコンテスト	オープンキャンパスでのイベントとして、株式会社スパイスとの共催で、広告キャッチコピーコンテスト「あなたもコピーライター! ～商品をヒットさせろ～」を実施した。同社商品のキャッチコピーを考案、応募。最優秀賞は実際の当該広告でキャッチコピーとして採用されたり、入賞者に賞品を授与した。	7月17日 8月7日	三好キャンパス	76	3	共催	無
9	社会福祉法人と連携した「食」に着目した販売活動	多機能・一体運営の事業所を営む社会福祉法人「ほっとはむ」と連携し、作業所において製作されるクッキーを協働のもと学園祭において販売した。販売戦略について検討を行い、当日は地域住民を中心に人気を博し、完売した。	9月1日～10月31日	社会福祉法人ほっとはむ	—	8	その他	無
10	上石津歴史探訪日帰りバスツアー	同ツアーのポスターを作成し、開催日にはボランティアスタッフとして参加した。現地では観光資源を自身の目で確認するとともに、ツアー参加者や地元の方々とのコミュニケーションをとりながら、移住体験ツアーを企画するための情報収集を行った。	10月15日 11月13日 12月4日	大垣市上石津地域	60	12	協力	有

No	タイトル	内容	開催月日	開催場所	参加人数	学生数	種別	契約・協定書の有無等
11	大学内1dayインターンシップ	キャンパス内で株式会社アルペンの24卒1dayインターンシップを開催。参加することも容易でないインターンシップも多く、学内で行うことで学生にとって初体験でも安心感のある参加しやすい就活を企画した。参加者には同社より継続的に採用情報を提供した。	11月5日 11月19日	名古屋キャンパス	72	72	共催	無
12	グローバルティーチェーン「Gongcha」へのマーケティング施策提案	株式会社ゴンチャ ジャパンがもつマーケティング目標達成に向け、コミュニケーション面でどのような課題があり、どのように変えていくべきかの具体的施策を代表取締役役に提案した。	11月9日～3月31日	三好キャンパス	-	11	共催	無
13	かみいしづ移住体験ツアー2023	同ツアー内のイベントや運営方法等を提案し、そのうちのいくつかが採用され、ツアーが開催された。開催日には運営スタッフとして参加し、空家見学の準備や交流会の司会進行などを行った。	3月4日～3月5日	大垣市上石津地域	17	12	協力	有

No	タイトル	内容	開催月日	開催場所	参加人数	学生数	種別	契約協定書の有無等
1	コミュニティFM「みよしコミュニティニュース」	エフエムとよたの番組「モミアゲラジオ」(毎週土曜日午後3:00～6:00放送)内で「みよしコミュニティニュース」(放送時間午後3:50～4:00)のコーナーを武市ゼミの3,4年生が担当。学生が市内イベントをインタビュー取材し、レポーターとして地域情報を発信する。2013年11月末より。(2013年11月29日・2016年4月11日付新聞記事、広報みよし2019年12月号特集記事あり)	4月2日～3月25日 毎週土曜日	みよし市カリヨンハウス	—	19	共催	無

No	タイトル	内容	開催月日	開催場所	参加人数	学生数	種別	契約有約定書の・
1	2022年度岐阜県関市国際交流協会事業 「わかさ教室」学生ボランティアの取り組み	2022年度も前年度同様に年間32回-または64回(1人の生徒あたりの回数)のオンライン教室を計画し、関市在住の日本語を母語としない中学生の希望者(10人前後)に対して、週1回または2回、各回1時間程度のオンラインによる教科学習支援を行った。日本語初期指導が必要な生徒もいれば、受験学力をつける必要がある生徒もいるなど生徒の学習ニーズが多様であることから、1人の生徒に対して複数の支援者が関わる必要がある。そこで、サポーター(教育職経験のある大人)の補助者として学生ボランティアを募集した。学生自身が生徒との人間関係をつくることができ学習支援に慣れてきた時点で、学生1人または2人ペアに任せた学習支援に切り替えた。学生の希望日時や学習支援の具体に関する不安なども十分考慮し、横山真理が本学コーディネーターとしての役割をもってボランティア学生を指導した。関市国際交流協会の事業として位置付けられており、関市市民協働課の責任のもとでzoomの有料契約によるオンライン教室の開設が成立している。したがって、zoom利用に関する学生の費用負担はなく、学習支援に利用できるように、学生に対してホワイトボードや教材プリントのデータが入ったUSBメモリを貸し出した。	1人の生徒に対して年間32回-64回(毎週月・火・水・金の夜に開催予定)	zoomによるオンライン教室	14	-	協力	無
2	定期健康診断の補助	小学校、中学校、高校での健康診断における歯科検診の補助、歯式票の記入、内科健診や聴力検査の補助を行った。	4月8日 4月25日 6月2日 6月16日	みよし市(南部小) 名古屋市(しまだ小、白沢小) 愛知淑徳中学校・高等学校 合計5校	-	21	協力	無
3	保健室ボランティア	各学校の保健室で養護教諭の補助をしながら、養護教諭の職務に対する理解を深めた。児童生徒とのかかわりを通して、個々の成長発達や教育現場の課題を学ぶとともに、教員志望のモチベーションが高まった。	4月～3月	名古屋市16校 愛知県内11校 岐阜県2校 私学高校2校 合計31校	-	51	協力	無
4	「Zoomをたのしもう」での保育実技等の体験	名古屋市地域子育て支援拠点くれよんひろば・くれよんぱーくが運営するZOOMを用いた子育て支援活動に参加し、学生が作成した保育教材を用いた30分間の保育実技を実施した。13時30分～14時までの30分間。各学生が実践担当、Zoom撮影担当を役割分担し、0～3歳児とその親子とのふれあいを経験した。なお、学生側は大学内プレイルームにて実践を行った。	7月	オンラインコミュニケーションツール Zoom会議	親子10組	9	協力	無
5	乳幼児向け「東海学園大学保育専攻の先生によるおはなし会」のでの実践	天白図書館での乳幼児向けおはなし会に保育学生が参加し、0～3歳未満児とその親を対象に、30分のおはなし会を1日に2回×3日(計6回)開催した。絵本、紙芝居をはじめ、さまざまな歌、遊びを十分に楽しめるようさまざまな小道具、楽器演奏を実施した。(学生主体の活動であるが、学生が就職活動と実践日が重なることもあり、活動タイトルが教員主体のものとなった)	8月26日 9月22日 10月27日	天白図書館	親子36組	各日3名ずつ 合計9	協力	依頼書有
6	誠和幼稚園での造形プログラム 『カラダとココロで楽しむ 絵具あそび!』	園児と大学生の造形プログラムを実施。「絵具という画材を、直接手や指で触れ、その感触を楽しみ味わいながら、画用紙にベタベタ、ぬりぬり! 身体全体の動きを使って、心から楽しみながら絵具であそびます。」	8月30日	誠和幼稚園	年長児44	9		
7	就学時健康診断の補助	就学時健康診断における誘導、内科健診、眼科健診、歯科検診、聴力検査の補助を行った。	10月17日～11月17日	みよし市の小学校、名古屋市の小学校、合計15校	-	50	協力	無
8	令和4年度 名古屋土曜学習プログラム「造形表現体験学習」	自然素材である「枝」に、様々なひもを巻きつけ立体作品を制作した。身の回りにある何気ない素材が、造形活動を通し、アートという表現に生まれかわることを体験した。小学生の参加人数は26名。	10月22日	八熊小学校	児童26	9	名古屋市教育委員会主催	依頼書有

No	タイトル	内容	開催月日	開催場所	参加人数	学生数	種別	協定・契 約有 無等 書の・
9	第54回岡崎マラソン医療救護ボランティア(AED隊)	第54回岡崎マラソン(10km,3km,2km)のマラソンコース上及びフィニッシュエリアに二人一組でAED、救急処置用品を持参して待機し、不測の事態に備えた。また救護本部で待機し、記録等実施した。	11月27日	岡崎総合公園及び岡崎市内マラソンコース	-	22	協力	無
10	第41回豊田マラソン医療救護ボランティア(AED隊)	第41回豊田マラソン(10km,2km,4km)において、AEDと救急バッグを背負い二人一組で自転車で巡回し、不測の事態に備えた。また、本部および救護所での活動を補助した。	12月11日	豊田スタジアム及びマラソンコース	-	20	協力	無
11	宗門関係大学社会貢献報告会	宗門関係4大学がともいきをテーマに社会貢献活動について報告し、パネルディスカッションを実施。	12月17日	京都華頂大学	89	4	共催	無
12	マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知2023における医療救護ボランティア	マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知は、名古屋ウィメンズマラソン(フル)、名古屋シティマラソン(10km、ハーフ)を1日で実施する大会である。メディカルサポーターとして、17カ所の各救護所の受付、気象調査、電話・無線対応記録、コールドスプレーステーション(CSS)での活動の他、医療統括本部での活動をサポートした。	3月12日	バンテリン名古屋ドーム、マラソンコースの救護所及びCSS	-	103	協力	無
13	子育て支援会「東海学園大学のお兄さんお姉さんと遊ぼう！」	天白児童館での子育て支援会を保育専攻木本ゼミで企画し、学生が参加して、未就園児とその保護者向けのお楽しみ会を実施した。教員によるミニ子育て講話と天白児童館職員による花の苗植えにも参加した。	3月17日	天白児童館	親子10組	9	協力	依頼書有

No	タイトル	内容	開催月日	開催場所	参加人数	学生数	種別	契約協定 有約 無約 書の・
1	みよし市立南部小学校での出張授業	運動会に向けたリレー指導。5年生の全員リレーを対象にした45分の指導及び選抜チームを対象とした指導を行った。	5月13日	南部小学校グラウンド	5年生 全員	9	協力	無
2	名古屋市主催 水中フォーム撮影会	水中カメラを使用し、水泳フォームを撮影し、解説を行う。	5月15日 6月11日 6月18日	日本ガイシアリーナ（50m競泳プール）	30～40	0	委託	無
3	みよし市立南部小学校での運動会運営補助及び前日準備	運動会当日の運営補助にあたった。用器具の準備・片付け、児童の誘導等。また、前日はテントの設営等を行った。	5月20日 5月21日	南部小学校グラウンド	-	5	協力	無
4	名古屋市教育委員会「名古屋土曜学習プログラム」	名古屋市教育委員会が主催する、小学生を対象とした体験学習事業に従事した。	5月28日 6月11日	名古屋市立正木小学校 名古屋市立牧野小学校	30 25	各10	協力	有
5	みよし健康カレッジ	みよし市在住高齢者を対象とした運動教室	5月～7月	三好キャンパス5号館ダンススタジオ	12	12	その他	無
6	大桑村ほっと運動教室	長野県大桑村在住高齢者を対象とした運動教室	5月～1月	大桑村公民館・大桑村役場	23	12	共催	有
7	黒笹保育園との運動遊び	年少さんは黒笹保育園遊戯室にて、年中・年長さんは大学ラグビー場にて、学生が主体となって内容を企画し、園児との運動遊びを実施した。年長さんは年2回の開催とし、体力測定とその評価・フィードバックも行った。	6月14日 6月15日 6月24日 11月7日	黒笹保育園遊戯室 東海学園大学 ラグビー場	約40	約15	共催	無
8	ごちゃまぜ運動会	障がいのあるなし、年齢、国籍、性別などに関係なく、みんなで楽しむことを目的としたインクルーシブ運動会で、運動会の運営ボランティアを実施。	6月18日	尾張旭市旭中学校体育館	120	12	協力	無
9	第18回愛知県ティーボール大会	愛知県ティーボール大会において、本学学生がメディカルサポートスタッフとして参加し、試合中に発生するけがなどに対する応急処置の支援を行った。	6月25日・26日	至学館大学野球場	10	9	協力	無
10	松山市社会福祉協議会松山市ふれあい・いきいきサロン介護予防サロン	松山市社会福祉協議会において介護予防に関する助言、体力測定結果の分析、報告書作成	6月～3月	遠隔会議	8	-	その他	無

No	タイトル	内容	開催月日	開催場所	参加人数	学生数	種別	契協 有約 定書 の・
11	三好ともいきスポーツクラブ キッズダンス教室	親子を対象にリズムダンスのレッスンをを行い、最終日に成果を披露し合った。 レッスンの内容は、リズムストレッチ、ペアダンス、アイソレーション、リズム取りの練習、振付であった。最終日の成果披露は、BTSの「Dynamite」に合わせて振付した内容に、参加家族オリジナルの振付を加えて作品を仕上げてもらい、家族ごとに発表を行った。発表は動画で記録し、レッスンの最後に動画をお渡し（スマートフォンへ）し、自宅等でも見ていただけるようにした。	8月2日、4日	三好キャンパス5号館ダンススタジオ	9	3	主催	無
12	ニュースポーツフェスティバル 2022 ティーボール体験	ティーボール体験企画の指導補助	9月10日	愛・地球博記念公園（モリコロパーク）	6	5	協力	無
13	なごや健康カレッジ	名古屋在住高齢者を対象とした運動教室	9月～12月	名古屋キャンパス体育館	29	12名	委託	有
14	みよしフレイル予防教室	みよし市在住高齢者を対象としたフレイル予防を目的とした教室	9月～12月	三好キャンパス体育館1階	21	12	委託	有
15	高齢者体力測定	みよし市在住高齢者（通いの場参加者）を対象とした体力測定	10月～3月	みなよし地区、なかよし地区、おかよし地区、きたよし地区の通いの場	60	12	その他	有
16	あいち県立大学 子育て支援センター もりっこやまっこ 運動教室	10時30分から 1時間程度本学陸上部の女子学生2名を連れて ラダーとバドミントンを行った	11月10日	あいち県立大学 守山キャンパス	約20	2	その他	有
17	だれでもサッカー広場	障がいのあるなしに関わらず、だれもが楽しめるサッカーイベントの企画・運営ボランティアの実施。障がい者サッカーチームとの交流試合にも参加予定	11月20日	テラスボ鶴舞	300	16	協力	無
18	東海学園大学スポーツ健康科学部 主催イベント 第3回「みんな集まれ!!かけっこ教室」	小学生を対象としたかけっこ教室、運動あそびや走り方の基本動作の指導	11月20日	三好キャンパス第1グラウンド	37	10	主催	無
19	みよし市立南部小学校でのマラソン大会運営補助	マラソン大会の伴走・運営補助	12月8日	南部小学校グラウンド	全校	6	協力	無
20	日本ビエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム2022	高校生を対象に運動プログラム（運動遊びとモルック）を実施した	12月27日	中京大附属中京高校	15	6	協力	無

No	タイトル	内容	開催月日	開催場所	参加人数	学生数	種別	契約・協定・有約書等の有無
21	緑丘児童クラブでの「運動遊び・かけっこ教室」	みよし市内の児童クラブの1つである緑丘児童クラブで小学生50名を対象に運動遊びを実施した	12月28日	緑丘小学校体育館	50	6	協力	無
22	千種区老人クラブ連合会 令和4年度さわやか健康講座 「気軽に歩いて今日も元気」	千種老人クラブ会員を対象としたウォーキング講座	1月24日	千種文化小劇場	50	-	その他	無
23	東海学園大学スポーツ健康科学部・三好ともいきスポーツクラブ共催イベント 第4回「みんな集まれ!!かけっこ教室」	小学生を対象としたかけっこ教室、走投跳を含む複数の種目を体験する	2月21日	三好キャンパス第1グラウンド	34	14	共催	無
24	みよし市フレイル予防サポーター養成講座 講師	みよし市民を対象としたフレイル予防に関する公開講座。みよしよしよし体操の普及を目的としても実施。	2月22日 3月1日	おかよし交流センター・みよし市保健センター	60	1	その他	無
25	「名古屋ウィメンズホイールチェアマラソン2023」	「名古屋ウィメンズホイールチェアマラソン2022」でのエスコートスタッフ及び運営スタッフ(ゴールテープ等)	3月12日	ゴールエリア、妙音寺通り周辺	15	15	協力	有
26	スポーツを活用したみよしの課題解決プロジェクト(企画)	みよし市政策推進部企画政策課の協力のもと、スポーツを活用したみよしの課題解決に繋がる企画を立案。最終的には、企画政策課・産業課の市職員を前に企画のプレゼンテーションを実施した。	2022年度秋学期	みよしキャンパス みよし市役所	15	10	その他	無
27	Vリーグ女子・デンソーエアリービーズのホームゲーム運営補助	バレーボールVリーグに所属するデンソーエアリービーズのホームゲーム運営に従事。	2022年度秋学期	西尾市総合体育館 岡崎中央総合公園 総合体育館	一	10	その他	無

No	タイトル	内容	開催月日	開催場所	参加人数	学生数	種別	協定・有約・無等書の・
1	第18回あさひ健康フェスタ	①スタンプラリー: スカイワードあさひ会場でのスタンプラリー参加者に記念品進呈 (イチビキ、東海学園大学提供、展示あり) ②とうがく健康測定: 骨密度測定・ヘモグロビン測定・足指筋力測定体験	4月29日	スカイワードあさひ	170	9	協力	無
2	第1回学びの体験講座	高校生、父兄を対象とした「学びの体験講座」を開催した	6月11日	名古屋キャンパス	50	10	主催	無
3	健康栄養ブラザ 第1回「たんばく質のいろは」	中日本フード株式会社 松野平加奈氏(卒業生)よりたんばく質についての講義と効率よい食べかた、鶏肉を活用した調理実習を行った。(講義、調理実習)	7月2日	名古屋キャンパス	11	4	主催	無
4	SDGs将来世代創造フォーラム2022	①とうがく健康測定: InBody測定・骨密度測定 ②SDGs関連の取り組みの展示 (学部の紹介、企業コラボ商品等の紹介)	8月24日	名古屋中小企業振興会館 吹上ホール	150	13	その他(出展)	無
5	第2回学びの体験講座	高校生、父兄を対象とした「学びの体験講座」を開催した	9月3日	名古屋キャンパス	42	14	主催	無
6	NEXCO中日本グループとの産学連携	愛知県主催「学生 & いいともあいちコラボレシピコンテスト」に応募したメニューをNEXCO様と共同開発した商品を1日限定で販売した。	9月25日	豊田上郷サービスエリア	30	3	共催	無
7	健康栄養ブラザ 第2回「体力低下を防ぐ」	本学教員 神戸絹代教授による体力低下を防ぐための生活習慣についての講義と免疫力アップレシピの調理実習を行った。(講義、調理実習)	10月1日	名古屋キャンパス	7	5	主催	無
8	健康栄養ブラザ 第3回「そば打ちを楽しむ」	なごやそば打ち会の方々が講師となり、新そばにつての知識と本格的なそば打ちの実演と実習を行った。(調理実習)	11月26日	名古屋キャンパス	11	5	主催	無
9	令和4年度あいちの味覚たっぷり！ わが家の愛で朝ごはんコンテスト	愛知県教育委員会主催の小学生を対象とした朝ごはんコンテスト本選を本学で開催した。書類審査通過10名による調理と審査員による審査が行われた。	10月23日	名古屋キャンパス	62	10	共催	無
10	日本ゼネラルフード株式会社産学連携	2年生を対象に、「福島県沖の魚を見て、知って、食べて」レシピコンテスト。優秀賞は日本ゼネラルフード株式会社受託会社職員食堂で販売	11月28日 12月5日 12月12日	トヨタ吉原工場 河村電機工場 名古屋テレビ	-	82	共催	無

No	タイトル	内容	開催月日	開催場所	参加人数	学生数	種別	契約・協定・有無等書
11	第3回学びの体験講座	高校生、父兄を対象とした「学びの体験講座」を開催した	12月3日	名古屋キャンパス	34	10	主催	無
12	名古屋商工会議所若鯨会40周年記念式典	記念式典時の参加者に、名古屋らしさを演出した軽食を若鯨会所属の「味鶴」弁当者とクッキングチームを立ち上げてレシピ開発、試食会を実施して記念式典市に配布した。	12月10日	名古屋国際会議場	200	18	共催	無
13	株式会社名給との産学連携	・名給フードネットワーク 2023春in名古屋展示会で大学生コラボコーナーに出展 ・学生コラボレシピBOOK冊子作成	3月23日	名古屋国際会議場	1000	8	共催	無

No	タイトル	内容	開催月日	開催場所	参加人数	学生数	種別	協定書・ 有無等の・
1	子ども支援①	名古屋市立原小学校トワイライトスクール	4月1日～3月31日 放課後毎日実施	名古屋市立原小学校	－	206	その他	無
2	子ども支援②	名古屋市天白区(原学区・平針南学区)での小学生の 学習サポート	4月1日～3月31日 毎週土曜日	各コミュニティセン ター	－	236	その他	無
3	名古屋健康運動倶楽部	高齢者向けフレイル予防運動教室	4月1日～3月31日 毎週金曜 1部 9:10～10:10 2部 10:30～11:30	名古屋キャンパス	延 1067	－	主催	無

【三好ともいきスポーツ倶楽部】

2022年度報告

No	タイトル	内容	開催月日	開催場所	参加人数	学生数	種別	契約・協定・有約書等の有無
1	三好健康カレッジ	高齢者向けフレイル予防運動教室	5月9日～7月11日	三好キャンパス	延98	66	委託	無
2	グラウンドゴルフ倶楽部	グラウンドゴルフ	4月1日～3月31日 毎週火曜日	三好キャンパス	延408	－	主催	無
3	公園体操	公園体操	4月1日～3月31日 毎週水曜日	三好キャンパス	延712	－	主催	無
4	ポールウォーキング倶楽部	ポールウォーキング	4月1日～3月31日 毎週木曜日	三好キャンパス	延544	－	主催	無
5	健康運動倶楽部	高齢者フレイル予防体操	10月1日～3月31日	三好キャンパス	延145	－	主催	無
6	ピンポン倶楽部	ピンポン	10月1日～3月31日	三好キャンパス	延69	－	主催	無
7	スマイルママパパ教室	20～45歳の子育て層をターゲットとしたヨガ教室	10月1日～3月31日 隔週月曜日	三好キャンパス	延62	－	主催	無

令和 4 年度地域連携支援プログラム報告書

発行：東海学園大学

発行年月：令和 5 年 5 月

名古屋キャンパス

住所：〒468-8514 名古屋市天白区中平二丁目 901 番地

TEL：(052)801-1201 FAX：(052)804-1044

三好キャンパス

住所：〒470-0207 愛知県みよし市福谷町西ノ洞 21 番地 233

TEL：(0561)36-5555 FAX：(0561)36-6757